

<戦争と愛のバラード> —混声合唱とピアノのための—

戦争はいつも国家のためという「大義」のもとに若者たちを兵士として駆り立て、恋人たちの愛を引き裂いてきました。そんな戦争の不条理を告発する3人の詩人の詩を選んで、曲をつけていただきました。ヴェラ・ブリテンは、イギリスの作家で、第1次世界大戦で出征した婚約者や弟を失い人生を狂わせられた体験から平和のための文筆活動などを続けた女性です。ヘルマン・ヘッセは「車輪の下」などで有名なドイツを代表する詩人・作家。第一次世界大戦の中好戦的論調に異を唱えて非国民扱いされた当時書いたのが「戦争の4年目」です。そして、シャンソン「枯葉」の作詞をしたフランスの民衆詩人ジャック・プレヴェールが戦争を起こすものに対する鋭い批判を綴った「戦争」。これらの詩に、日本を代表する音楽家である新実徳英さん自らが新たに訳詩に挑戦し、様々な仕掛けを加えた楽曲です。三つの詩は100年近く前の第1次、第2次世界大戦の時代に作られたものですが、ロシアによるウクライナ侵攻のいま、驚くほど身近に迫ってきます。

戦争の4年目

ヘルマン・ヘッセ
(角田 英一 訳)

夕暮れ寒く 痛ましく
雨が音立て 降ってても
そんな時にも 歌います
誰も聞いては いないけど

この世は戦争と 不安とで
息が詰まっているけれど
愛は燃える 秘めやかに
誰も気づきは しないけど

愛は消えぬ 愛は進む

混声合唱のための

「いのちをつなぐ人たちのうた」

この合唱組曲は2007年初演されました。今回は全9曲のうち8曲を演奏します。

いのちをいつくしみ守るために医療や介護にはたらく人と利用者国民とをつなぎ、いつでもどこでもだれでも安心してかかる医療や介護の願いを込めて、この合唱組曲はつくられました。大阪民主医療機関連合会のご協力をいただき、看護師、医師、ヘルパー、介護施設利用者、訪問看護利用者などに聞き取りを行い、詩人の上田假奈代さんに作詞、安広真理さんに作曲をしていただきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、「助けられる命が助けられない」状況が多発し、日本の医療、介護、公衆衛生の脆弱さが誰の目にもはっきりしました。そして、医療従事者や保健所職員、介護従事者などいのちをつなぐために命がけで懸命に働いている人たちの仕事の尊さを実感しました。私たちは、いまこそこの組曲を多くの方々に聞いていただきたいと考えています。

新型コロナウイルス感染対策 へのご協力をお願い

開催にあたり、以下の感染予防対策へのご協力をお願いいたします。

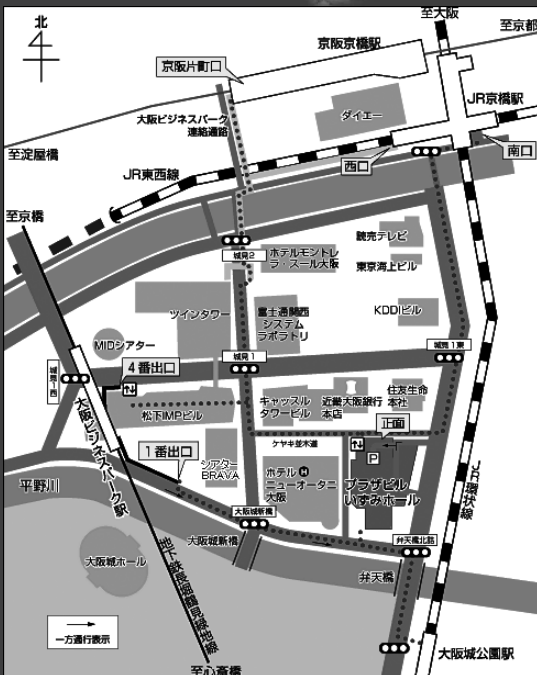
- ・のどの痛み等の症状があり体調に不安のある方につきましては、ご来場をお控えいただきますようお願いいたします。
- ・混雑を緩和するため、入退場を規制する場合がございます。ご来場の際にはお時間に余裕をもってお越しください。
- ・入場時に体温チェックを行います。平熱より1度以上高い発熱または37.5度以上の発熱がある方は、入場をお断りさせていただきます。
- ・マスクの着用を推奨いたします。また、こまめな手洗い、手指の消毒をお願いいたします。

※当合唱団、住友生命いずみホール
のホームページにも感染防止対策を



詳しく載せておりますので、あわせてご覧ください。

住友生命いずみホールのアクセス



大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命OBPプラザビル
TEL 06-6944-2828 (代表)

●JR環状線「大阪城公園」駅出口より線路沿いに京橋方面へ徒歩約3分
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅1番出口より
川沿いを東へ徒歩約5分

※駐車場はビル地下にあります。(有料)